

日韓大学生オンライン交流事業（オンライン）の記録

1. オンライン交流概要

【目的】日韓の同世代の大学生同士が、両国で開催される「日韓交流おまつり」のオンラインブース運営等を通じて、両国の協力・友好関係について理解を深め、広く対外発信することにより、両国の協力関係の重要性を広めることを主目的とする。

【参加者】日韓両国の大学生60名

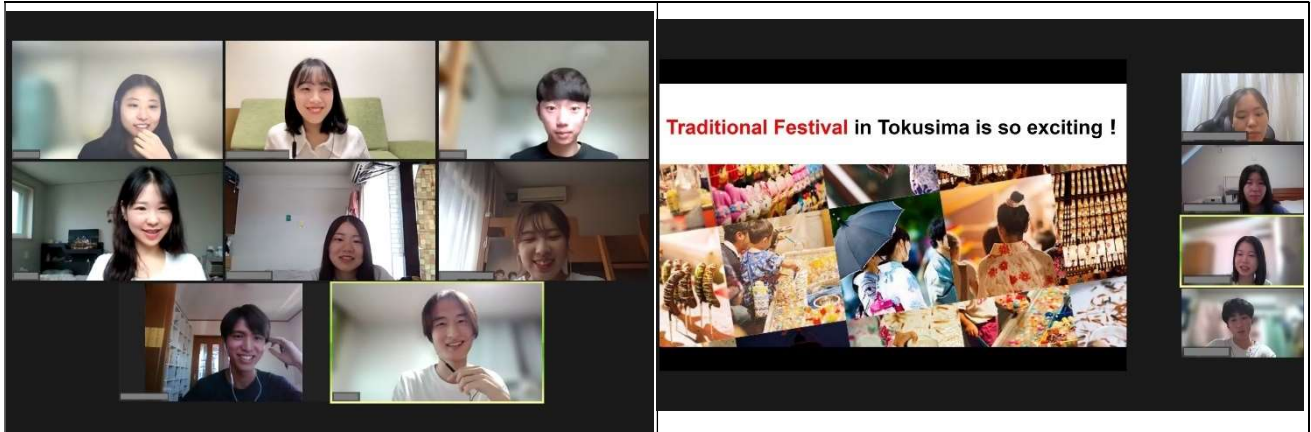
【日程】

日にち 訪問地	内容	参加者の質問・反応（参加者の人数 実績）
1回目 8月21日	<p>【オリエンテーション】</p> <p>【テーマ関連講義・質疑応答】</p> <p>「最近の日韓関係」</p> <p>講師：外務省 武田克利 日韓交流室長</p> <p>①聴講 ②質疑応答</p> <p>【プロジェクト関連意見交換】</p> <p>①グループ別プロジェクトテーマの設定</p> <p>②グループ別プロジェクトの発表準備</p>	<p>講義では、少子高齢化や気候変動問題等、日韓共通の社会問題や地球規模の問題に対し、両国の若者が未来に向けてどのように貢献できるか等の質問があった。</p> <p>グループ別プロジェクトでは、本プログラムのテーマに即した関心事項等を共有することで、コロナ禍における両国の現状や今後の展望等について認識を共にしていた。（参加者：60名）</p>
2回目 8月28日	<p>【テーマ関連講義・質疑応答】</p> <p>「ポストコロナのトレンド展望と望ましい日韓協力方策の模索」</p> <p>講師：韓国外交部 ファン・スイン 外務書記官</p> <p>①聴講 ②質疑応答</p> <p>【プロジェクト関連意見交換】</p> <p>①グループ別プロジェクトの発表準備</p> <p>【テーマ関連意見交換】</p> <p>①「日韓交流おまつり」オンラインブース運営に関する意見交換・運営準備</p>	<p>講義では、未来志向的な日韓関係の構築に向けて、両国の若者に求められる姿勢や今後の日韓交流のあり方等につき質問があった。</p> <p>グループ別プロジェクトでは、前週に策定したプロジェクトテーマや発表方法等について、英語や日韓両言語を駆使しながら熱心に議論を重ねることで、相互理解を深めた。（参加者：60名）</p>
3回目 9月5日	<p>【テーマ関連交流】</p> <p>①「日韓交流おまつり in Seoul」オンラインブース運営</p>	<p>日本側参加者は、オンラインブース「（日本について）何でも聞いて」の運営を通じて、韓国的一般</p>

		市民に対し、「旅行」「食文化」「ポップカルチャー」等の分野別に日本の魅力を積極的に発信した。終了後には、「九州の魅力について発表したところ、来場者が『実際に行ってみたい』と言ってくださり、やりがいを感じた」「状況が改善したら、ぜひ日本に来て実際に日本文化を体験してほしい」等、対日理解の促進に寄与した達成感が見られる感想が数多く寄せられた。(参加者：30名)
4回目 9月11日	<p>【テーマ関連交流】</p> <p>① 「日韓交流おまつり in Tokyo」オンラインブース運営</p>	韓国側参加者は、オンラインブース「韓国の隠れた宝物」の運営を通じて、日本の一般市民との交流に積極的な姿勢で臨んだ。終了後には、「来場者は韓国に関心のある方も多く、日韓両市民が双方向にコミュニケーションを図ろうとしていることが感じられた」等の感想が寄せられ、日韓間における相互理解の重要性を再認識していた。(参加者：30名)
5回目 9月18日 秋田県横手市ほか	<p>【テーマ関連視察】</p> <p>「コロナ禍における JAL の取り組み」 講師：日本航空株式会社 玄場智雄氏</p> <p>「横手市と日本航空のパートナーシップについて」 講師：一般社団法人横手市観光推進機構 鳴海祥一氏</p> <p>①聴講 ②質疑応答</p> <p>「ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）について」 講師：明知大学ゼロエネルギー建築センター イ・ウンシン教授</p> <p>①聴講・VTR 視聴 ②質疑応答</p> <p>【テーマ関連発表報告】</p> <p>①日韓オンラインブース成果報告 ②グループ別プロジェクト発表</p>	日本側の視察では、コロナ禍で打撃を受けた航空業界の現状と展望について、秋田県横手市の事例を基に、日本企業と地方自治体の協働による地方創生の取組等も含めた紹介が行われ、学生たちは熱心に聴講していた。韓国側の視察では、コロナ後の持続可能な社会に向けて注目度が増す ZEH の関連施設を視察し、国民のエネルギー節約に対する意識を高める方法等につき質問があった。総括として、「日韓交流おまつり」のオンラインブース運営を通じて得た成果等についてのプロジ

		<p>エクト発表を行い、両国の協力関係の重要性を再確認した。(参加者：60名)</p>
--	--	---

3. 記録写真

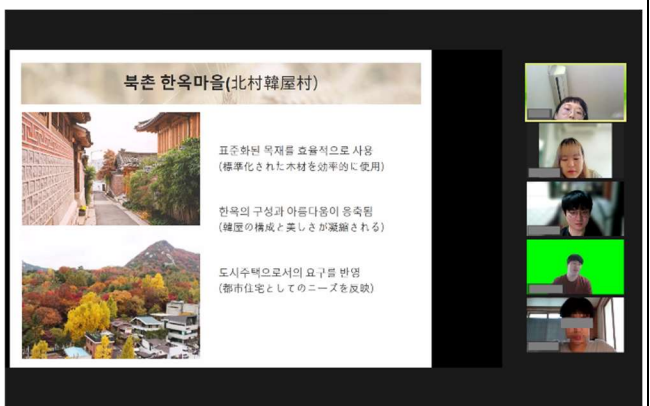


2021年8月21日【プロジェクト関連意見交換】グループ別プロジェクトの発表準備

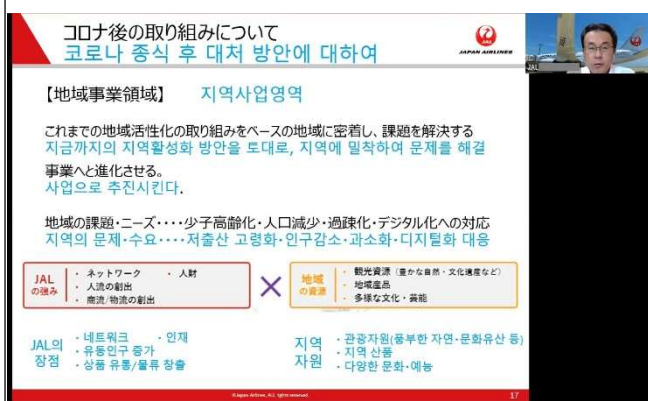
2021年8月28日【テーマ関連意見交換】「日韓交流おまつり」オンラインブース運営準備



2021年9月5日【テーマ関連交流】「日韓交流おまつり in Seoul」オンラインブース運営



2021年9月11日【テーマ関連交流】「日韓交流おまつり in Tokyo」オンラインブース運営



2021年9月18日【テーマ関連視察】「コロナ禍におけるJALの取り組み」



2021年9月18日【テーマ関連視察】「ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)について」

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ 韓国 学生

最終日のオンライン視察内容が充実していて良かった。日本の様々な企業について勉強してみたいと思った。日本の大学生との交流も大変楽しかった。このような良い機会に、良い方々に会うことができてうれしく思う。

◆ 韓国 学生

日本語を独学で勉強していたが、日本人と話す機会がなかったため、今回のプログラムを良い機会だと思い参加した。日韓両国の専門家の方々の講義やグループメンバーとの交流時間、また日本の文化について知る全ての時間が意味のある時間だった。また機会があればぜひ参加したい。

◆ 日本 学生

初めてオンラインでのプログラムに参加したため、最初は緊張したが、講義を受けたり、「日韓交流おまつり in Seoul」の準備をしたり、同年代の日韓両国の大学生との交流を通じて、刺激を受け視野が広がった。また、日本の魅力も再確認することができた。このプログラムを終え、良い日韓関係を築いていくためには、私たち若者が相互によりよく知ることが大切だと思った。

◆ 日本 学生

韓国語が未熟なため、最初は戸惑うこともあったが、互いに関心を持ち、話し合うことで絆が生まれ、協力し合うことができた。グループの方々とはプログラムの時間以外でも趣味や日韓両国の食文化、生活スタイル、言語の使い方等を共有することができ、楽しみながら交流を図った。

また、SNSを用いた日本の魅力発信や「日韓交流おまつり in Seoul」でのオンラインブースの企画・運営等を通じて、日本についても改めて知ることができた。これは、事前説明会で聞いた「外国（相手）のことを知るためには自国（自分）のことを知り、伝えることが大切だ」ということを達成できた証であると思う。本プログラムは私にとって日韓交流の第一歩となったため、今後は本プログラムへの参加を通じて感じたことや得たことを生かし、日韓交流を積極的に行っていきたい。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 日本側オンライン視察先関係者（日本航空株式会社及び一般社団法人横手市観光推進機構）

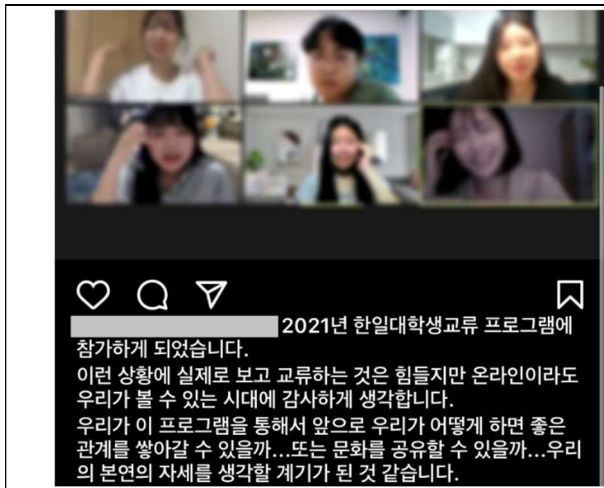
画面越しではあるが、学生の皆さんの真剣なまなざしや交流事業への取り組み姿勢が伝わってきた。コロナ終息後には、ぜひ秋田県横手市にお越しくくださるよう、心よりお待ちしております。

◆ 韓国側主催機関関係者（韓国国際交流財団）

最近の日韓関係は複雑化しているが、このような時だからこそ、未来の主役である両国の若者が交流し、協力し合うことが何よりも重要である。本プログラムの終了後も、両国に対する思いを大切に、新しい絆をつなぎ、来年こそは直接会って有意義な時間を共有してほしい。

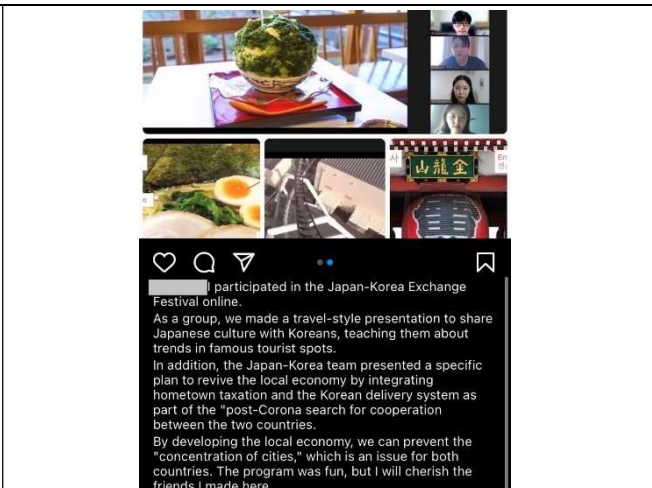
6. 参加者の対外発信、報道記事等

 <p>한·일 외교부, 대학생 교류사업 온라인 진행...양국 협력방안 모색</p> <p>외교부는 올해 '한·일 대학생 교류' 사업을 모레(21일)부터 한 달 동안 일련 외무성과 함께 공동 주최한다고 밝혔습니다.</p> <p>올해 교류 사업은 '포스트 코로나 트렌드 전망과 바람직한 한일 협력방안 모색'을 주제로, 온라인 방식으로 열립니다.</p> <p>양국 대학생 참가자들은 모레부터 다음달 18일까지 모두 5차례에 걸쳐 매주 토요일 온라인에서 만나, 경제진 주제에 대해 토의할 예정입니다. 한국 외교부, 일본 외무성 관계자의 특강과 그룹별 프로젝트도 진행됩니다.</p> <p>한일 대학생 교류 사업은 양국 대학생 사이의 우호 증진을 목표로 양국 외교부 차원에서 1972년부터 시행됐고, 올해 50주년을 맞았습니다.</p> <p>2019년까지는 양국 대학생 대표단이 상대국을 직접 찾아 외교기관과 역사·문화 명소들을 시찰하는 방식이었지만, 지난해부터 코로나19 여파로 온라인 개최로 전환했습니다.</p>	<h3>共通の問題や強みを分析 デジタル技術をベールに</h3> <h3>韓国大学生オンライン交流事業</h3> <p>コロナ後のトレンド展望と両国協力の模索</p> <p>「日韓外交当局、大学生交流事業をオンラインで実施...両国の協力方策を模索」本事業は今年で50周年を迎える日韓外交当局主催の伝統ある事業であり、今年度はオンラインで開催される旨報じられた。</p> <p>「コロナ後のトレンド展望と両国協力の模索」ポストコロナにおける日韓両国の協力方策等について、両国の参加者がグループワークを通じて導き出した様々な成果の内容が紹介された。</p>
<p>2021年8月19日 (韓国 KBS NEWS)</p> <p>「日韓外交当局、大学生交流事業をオンラインで実施...両国の協力方策を模索」本事業は今年で50周年を迎える日韓外交当局主催の伝統ある事業であり、今年度はオンラインで開催される旨報じられた。</p>	<p>2021年9月29日 (統一日報)</p> <p>「コロナ後のトレンド展望と両国協力の模索」ポストコロナにおける日韓両国の協力方策等について、両国の参加者がグループワークを通じて導き出した様々な成果の内容が紹介された。</p>
 <p>비록 지금은 이렇게 온라인으로 밖에 만나지 못하지만 한일관계 개선을 위해 이렇게 많은 대학생들이 활동에 참여해 주었다는 것은 분명히 앞으로의 한일관계에 있어 희망적인 사실이라고 생각한다. 현재의 한일 관계가 어두운 터널 속에 있더라도 우리가 노력하면 언젠가 빛이 보일 것이다. 코로나가 그러한 노력을 중단시켜서는 안된다. 코로나 사태가 해결되어 우리가 서로 만나는 그날을 고대하며 이 글을 마치도록 하겠다.</p>	 <p>슬기하고 노교아 핫키아도 등 일본은 많이 가졌지만, 일본이 왜냐 때문엔 잘 알려지지 않은 곳이 많을 것이기에 궁금하던 참에 온라인 여행 컨셉으로 퀴즈도 진행하고 정말 일본인만 아는 지역도 알려줘서 재밌었다!</p> <p>일본의 유행어나 J-POP에 대해서도 이야기하는 시간이 있었는데 일방적으로 발표를 듣는 것이 아닌, 같이 소통을 하는 시간이어서 좋았던 것 같다</p>
<p>2021年9月23日 (NAVER Blog)</p> <p>今はオンライン上で会うことしかできないが、日韓関係改善のために、これほど多くの大学生が参加したということは、今後の両国関係に希望が持てる確かな事実である。現在は暗いトンネルの中にいたとしても、私たちが努力すれば、いつかは光が見えるはずだ。(中略) コロナが収束し、直接会える日を心待ちにしている。</p>	<p>2021年10月2日 (NAVER Blog)</p> <p>(中略) 今まで東京や名古屋等を何度も訪問したことがあるが、「日韓交流おまつり in Seoul」では、日本人しか知らないような場所をオンライン旅行形式で紹介してもらい、楽しかった。日本の流行語や J-POP についても話したが、一方的な発表を聞く形式ではなく、相互にコミュニケーションが取れる時間となり良かった。</p>



2021年8月24日 (Instagram)

日韓大学生交流プログラムに参加することになった。現状では実際に会って交流することは難しいが、たとえオンライン上であったとしても、交流ができる今の時代に感謝したい。本プログラムを通じて、今後私たちがどうすれば良い関係を築いていくことができるのか、また文化交流ができるのか等を考えるきっかけになった。



2021年9月20日 (Instagram)

「日韓交流おまつり in Seoul」で日本を紹介するために、オンライン旅行形式の発表を行った。日韓混合のグループワークでは、テーマと関連し、日本のふるさと納税と韓国の物流システムを統合させ、地域経済の活性化を図る具体案を発表した。これは両国の共通課題である都市部への集中を防ぐことにもつながると考える。

7. オンラインプログラムの成果発表



本プログラムでは、最終日に下記2種類の成果について発表する機会を持った。

まず、「日韓交流おまつり」のオンラインブース運営等を通じて得た成果として、日本側参加者からは「韓国には日本に関心を持ってくださる方が多いことを知り、私自身が日本の文化や魅力をさらに勉強して、それを韓国語で広めていく必要があると感じた」「日韓関係がいかに重要であるかを実感した。今後、両国関係がさらに深化するように貢献したい」等の意見が寄せられた。

また、本プログラムのテーマ「ポストコロナのトレンド展望と両国協力方策の模索」について、各グループが導き出した成果として、両国の長所を生かした地方活性化システムや日韓間におけるメタバースでの文化交流等、多種多様な方策の提案があった。

実施団体名：公益財団法人日韓文化交流基金